

発見! おごおり遺産

No.23 写し霊場

今回のテーマは、写し霊場です。市内のお堂にある石像の基礎や壁面に見られる「三井川北」の文字には、どのような意味があるのでしょうか。



西島西ノ前のお堂



三井四国の石標



赤川南坪のお堂

お 遍路さんとして有名な四国八十八か所霊場巡り。これは、弘法

大師ゆかりの地や寺院八十八か所を巡る信仰のことで、西国三十三か所観音霊場と並び、最も有名な霊場巡りと言えます。

四国八十八か所霊場の行程は、1400キロメートルにも及ぶため、非常に厳しく、時間も必要です。そこで、巡礼を容易に行うことができない人のために、各霊場を地方に写して設置することが流行しました。これが「写し霊場」で、江戸時代中頃以降に各地に広がりました。

小都市周辺にも、いくつかの写し霊場が見られます。「三井川北四国八十八ヶ所霊場」は、明治39年(1906)に「明治四国八十八ヶ所霊場」から分かれて成立しました。大正15年(1926)の『三井川北四国道中案内』には、現在の小都市・大刀洗町・久留米市北野町・同宮ノ陣町に及ぶ334の札所が記載されています。これは八十八か所の約4倍で、信仰が非常に盛んであったことを表しています。この冊子には市内112の札所が記載されています。

ますが、約100年経過した現在でも、その多くを確認できます。

西島の西ノ前にあるお堂には、薬師如来像などがまつられています。ここは6番目の札所でした。現地には、「第七八番 三井四国薬師如来」と彫られた石標が建てられています。また、赤川の南坪にあるお堂には阿弥陀如来像などがまつられ、こちらは第53番札所でした。

巡礼は「どろどろ参り」や「お大師さん参り」と呼ばれ、春と秋に行われていました。当初は徒歩でしたが、時代とともに自転車やバイクでの巡礼へと変化します。市内では平成20年ごろまで行われていましたが、現在は見られません。各お堂に残る守護札が、当時の信仰の姿を今に伝えています。

市内には、この他にも「朝倉筑紫三井三郡地方八十八ヶ所霊場」(津古に札所)や、「城山四国八十八ヶ所霊場」(昭和3年(1928)に花立山に設置)などがあります。明治から平成に至るまで、弘法大師信仰は地域の民間信仰の中心にありました。

問合せ先 文化財課 ☎75・7555

おごおり遺産とは?》》近年の市内調査で「再発見」した文化遺産=市民のたからのこと